

## 平成27年度 第1回 図書館協議会会議録

日時 平成27年10月29日(木) 15:30から16:30

場所 松原市役所 802会議室

出席者 図書館協議会委員

藤野寛之委員、永田拓治委員、石田勝也委員、鈴木紀子委員、長野友香委員、砂山雅江委員、内田展子委員、白石圭二委員、田崎由佳委員

事務局 後藤田館長、手束参事、三浦係長、春名主査

○(手束参事) 第1回図書館協議会をはじめます。

傍聴席を設けています。注意事項を厳守してください。資料の確認。各委員自己紹介。

○(後藤田館長) 今年の7月より図書館長に就任しました。図書館協議会は図書館の運営に関して、館長が諮問した内容や図書館事業などについて議論していただく場です。活発な議論をしていただくようお願いします。

案件1. 会長の選任について

○(手束参事) 会長の選任について規則では「委員の互選によって選出する」となっています。どなたか推薦者はありますか。

○(白石委員) 藤野委員を推薦します。阪南大学で図書館情報学を専門にされているので適任と思います。

○(石田委員) 図書館に有識な方と思われるので、藤野委員を推薦します。

○(手束参事) 藤野委員が会長となられることに異議がないようなので、会長をお願いします。

○(藤野会長) 図書館協議会の円滑な運営に関し、皆様のご協力をお願いいたします。万が一私が急きょ欠席となった場合には、永田委員に代わりを務めていただきたいと思いますと思うがよろしいでしょうか。

(異議なし)

案件2. 平成26年度決算及び活動報告について

○(手束参事) 決算内容の資料より説明(資料参照)

平成26年度は施策の名称として、市民図書館管理運営事業・読書活動推進事業・障害者支援事業・電子書籍サービス事業の4つの事業をしました。

市民図書館管理運営事業は6館体制で運営するための費用や人件費です。正職の人件費は入っていません。平成26年度と25年度の比較として貸出冊数や購入冊数などが記されています。

読書活動推進事業は「絵本とおはなしの講座」や乳幼児サービスとして「えほんのゆりかご」「あかちゃんタイム」を市民グループとともに実施することです。市民が絵本に親しむ機会を提供し、そのためのボランティア育成にも取り組みました。有名な作家に来てもらい講演会もしました。

障害者支援事業はボランティア団体とともに、デイジー図書(視覚障害者のための音声図書)の製作をしています。内田委員はあめんぼテンプライブラリーのボランティアとして活躍いただいています。もう一つ団体(松原市朗読研究会)は松原市の「声の広報」も作製しています。そのような活動をしている2団体の育成もしています。

電子書籍サービス整備事業は大阪府で3番目に事業を開始した。7月から始め、パソコンやタブレットを使って図書館に来なくても本が読めるものです。

- （藤野会長）ご質問はありませんか。
- （砂山委員）電子書籍サービスの経費の内訳で、委託料はなにですか。
- （手束参事）電子書籍サービスは図書館流通センターがシステムを構築しています。初年度は4千点弱のコンテンツがはいっています。3千点はお役立ち本としてパッケージになっていて、選書して購入したものは947点です。
- （砂山委員）これから（予算）は少なくなるのですか。
- （手束参事）今年度については半分くらいになります。アクセス使用料はシステムを利用する費用で毎月発生するものです。コンテンツ費用はコンテンツを買うもので、今年度も買っていきます。
- （藤野会長）他に質問がなければ、次に活動報告についての報告に移ります。
- （手束参事）活動報告は昨年度実際におこなった事業についての報告です。

活動報告3ページ参照 図書館の配置地図です。松原南図書館は休止していて、今後は答申に沿って検討していきます。現段階では6館で運営をしています。下のネットワークでは、こども文庫などと連携していることを示しています。また、松原市民図書館にある資料だけではなく、他市との連携をして資料を提供しています。

活動報告5ページ参照 図書館の運営について、職員15名・嘱託職員9名・アルバイト9名（内3名は休止・廃止のための人）でしています。分館は基本的には嘱託職員1名、アルバイト1名で運営しています。内容は職務分担表で確認してください。

活動報告7ページ参照 年度別蔵書数の推移のなかで、1974年に2万2千冊から始まり2007年がピークで50万冊を超えました。括弧内は児童書数です。現在は少し減っています。この数字は雑誌を含んでいません。各館別蔵書数は2015年2月現在図書館にあった本の冊数を合計し端数処理をしたものです。貸出冊数は含んでいません。図書以外の資料は下の表の数字です。

活動報告10ページ参照 図書館の資料がどれだけ利用されたかという統計です。1999年度がピークで763,450冊であり、2014年度は536,728冊と年々落ちてきています。

活動報告11ページ参照 年度別登録者数の表の登録者数は図書館をその年度に利用した人の数字です。最も登録率が高かった時期は、1985年の19.7%で5人に一人の市民が使っていました。2014年は12.1%で8人に1人が利用しています。年々数字が減っています。

活動報告12ページ参照 館別の利用を一般書・児童書・雑誌・CD・ビデオ・DVDで分けた統計です。中の表は14歳以下と15歳以上の年齢に分けた統計です。図書館では予約を受け付けています。貸出中の資料で返却を待ち提供するものや、図書館に所蔵していない資料で購入などして提供する資料の予約を、昨年は5万5千弱受けました。処理件数はそれを提供できた件数で受け付けた件数とは一致しません。下の表は月平均、日平均の状況を記しています。

活動報告13ページ参照 資料の種類別の利用状況を3年間分分析した表になっています。こちらも毎年のように数字が落ちてきています。

活動報告14ページ参照 市民一人当りの貸出数で、総利用数を人口で割ったもので4.56点になっています。資料回転率は図書館にある資料と貸出数の割合で1.27回です。市民一人当り年間購入数は人口と購入冊数を割ったものです。中の表はそれぞれを年度別に比較した資料である。広域利用統計は他市から来て松原市の図書館を利用した人の数です。登録者数は新規登録の数です。松原市を含めて9市で協定を結んでいて、その内の市の図書館に行って証明書を出して登録をす

ると9市の図書館の本を利用できます。大阪市との間でも相互利用の協定を結んでいます。

#### 活動報告15ページ参照 相互貸借について

図書館は市民のリクエストに応じて本を提供します。松原市内の図書館に所蔵していない場合で、古いなどの理由で購入できないことがあります。その際、大阪府下の図書館の蔵書をネットで検索し、借りて提供します。無ければ府外の図書館から借りることもあります。この状況を表したものが、このページの数字です。

#### 活動報告16～18ページ参照 フリーサービス（障害者に対するサービス）について

デジターやカセット・CDを利用者に提供しています。松原市で所蔵しているものと、他館から借りるものがあります。ホームリーディングサービスは障害のある人の家に行って本を読むサービスです。その他サービスとして宅配サービスをしています。それは障害があつて図書館に来られない人に本を届けることです。フリーサービスはボランティア2団体（松原あめんぼテンプルライブラリーと松原市朗読研究会）の協力でおこなっているが、ボランティアのスキルアップの講演会もしています。

#### 活動報告19ページ参照 集会室の利用状況について

集会室は松原図書館、恵我図書館、松原南図書館があり、利用内容を書いています。松原図書館集会室は夏休み、冬休み、春休み期間には学習の場の提供として自習室として開放しています。この数字は昨年度であるが、今年度は利用が伸びています。大学受験の勉強かもしれないがよく利用する人は毎日利用しています。文化講演会もしています。

#### 文化活動一講座・講演会について

読書推進事業として絵本とおはなし講座のボランティア養成講座を行い、各地域でよみきかせをする人を育てています。講演会としては有名な絵本作家の市川里美さんやみやぎきひろかずさんに来ていただきました。

#### 活動報告27ページ参照 学校との連携協力委員会について

図書館見学は小学校3年生が図書館に来て、図書館がどのようなことをしているかを知ってもらうものです。5月7日から6月13日にかけて、恵我小学校など8校が松原図書館に来ています。分館にも見学に来ています。三宅図書館には三宅小学校2年生が見学に来ました。

職業体験学習は中学生が図書館に来てどのような仕事をしているかを2日間体験してもらうものです。今日は松原中学生が来ています。昨年度は5つの中学校から2人ずつ受け入れをしました。分館には職業調べなどに来ています。

活動報告31ページ参照 まつばら電子図書館は昨年7月から試行し、10月から本稼働しています。コンテンツはタブレットや携帯から利用するもので、その中に音声コンテンツというものがあります。これは音を聞くものです。こども向きには紙芝居の「さんまいのおふだ」などの音声コンテンツがあります。文字の表示がなく音だけを聞くものには太宰治「走れメロス」もあります。3～5分の章に分かれていて途中からも聞けるため、目の不自由なひとにも利用してもらえます。以上簡単に活動報告の説明をした。

○（藤野会長） 質問はありませんか。

○（田崎委員）率直な疑問として活動報告7ページに蔵書数があるが、人口や本に関連する年代とかに対して他市と比べて多いのか少ないのでしょうか。活動報告14・15ページの説明で、松原市になければ他市からの協力で本を借りたり、松原市民が他市に借りに行ったりしています。

- 図書館として他市と比べてどうなのかが、数字だけではわからないので教えてもらいたいです。
- （手束参事）手元に具体的な数字がありません。蔵書数は大阪府下では箕面市などは人口に比して高い。以前は西の松原東の日野と言われて、他市から見学があったときもありました。松原はそれほど多くはないが、松原より少ないところもあります。松原のピーク時に比べると今は減っています。広域利用を説明したが、どの市も財源的にしんどくなってきている部分があります。持ってない本を貸し借りすることで補いあっています。他市との比較についてはホームページの中に答申があり、知っている委員さんもあると思うが、他市と比較した資料が載っています。
  - （藤野会長）活動報告15ページの相互貸借によって足りない資料を補うことはしているのですね。
  - （手束参事）相互貸借は利用者からリクエストがあったとき、古い資料などで入手できないものは、他市を調べて借りることです。図書館の務めは、図書館法や図書館宣言によって市民の要望に応じて資料を提供することです。選書委員会をおこない資料を購入するかどうか検討しています。1週間で200件あまりのリクエストがあり、新規購入が一定数あります。拒否するものも稀にはあるが、古くて入手できないものや松原では利用が見込めないものは他市から借りることで対応しています。
  - （藤野会長）今の説明でよいか
  - （後藤田館長）補足として他市の詳しい数字はわからないが、日本図書館協会から面積や蔵書数の基準がでています。1人当たり3.9冊、人口12万人で46万8千冊になります。少し少ないが、大幅に基準を下回るわけではありません。河内長野市は45万冊です。
  - （藤野会長）質問はありませんか。
  - （永田委員）活動報告11ページの登録者数の減少について質問があります。人口の減少が一つの要因であるが、それ以外に減少の要因はなにが考えられていますか。
  - （手束参事）議会でも質問がありました。携帯電話の利用が広まるなどライフスタイルが変わり、読書をしなくてもゲームをしたり、趣味が多様になってきていて、そこに使う時間が増えているのではないのでしょうか。
  - （藤野会長）質問はありませんか。
  - （内田委員）活動報告14ページの広域利用統計で大阪市から借りている本が一番多いのでしょうか
  - （手束参事）広域利用統計は松原市の図書館に他市の人に来て松原市の本を借りている統計です。通勤・通学の人を含んでいます。活動報告15ページの相互貸借は他市・他府県から本を借りて松原市の図書館で貸出をしている統計です。広域利用統計の登録者は新規登録者数で、貸出人数は既に登録した人を含んだ利用者の数です。大阪市から通勤通学している人が多いのかもしれませんが。また羽曳野市は隣接しているため利用が多いと思われます。
  - （藤野会長）質問はありませんか。その他として委員からなにかありませんか。なければ次回開催日程について事務局からお願いします。
  - （手束参事）来年の1月から3月で会長や各委員様の日程を確認させてもらって調整したいと思います。
  - （藤野会長）次回日程については事務局から連絡があります。図書館協議会を終了します。